

「土砂災害について」

熊本県 熊本市立帯山中学校 1年 ^{しまづ}嶋津 ^{けいと}圭翔

人の命や生活を一瞬のうちに奪い去る土砂災害。今年も全国各地で豪雨や土砂災害が起きていることをテレビや新聞で知りました。

去年は僕が住む熊本県でも九州北部豪雨がありました。大雨による土砂崩れや住宅の倒壊、白川の氾濫、床上・床下浸水など多くの被害をもたらしました。一年経過した現在でも避難生活を送られている方がいます。

自分達が住んでいる県でこのような大きな被害が起こったことに驚きと心が痛みました。僕はもっと災害や安全防止策を詳しく調べ、学習することにしました。

土砂災害とは大雨が降ったりして、山や住宅地にある急な斜面が崩れて土や石や岩がいっしょになって僕たちに襲いかかってきます。土石流のスピードは時速40キロから50キロあり、町を走る自動車と同じ位の速さです。走って逃げても追いつかれてしまいます。

土砂災害は大雨・地震・火山噴火などで起きる自然災害の中で人が亡くなる割合が多いのです。

土砂災害はどうして、そんなに起きるのでしょうか？それには四つの大きな理由があります。一つ目は日本は平地が少なく国土の約7割は山地です。しかももろくて崩れやすい土や岩からできている山が多いからです。二つ目は日本は同じ緯度にある都市の中ですば抜けてたくさんの雨が降ります。しかも梅雨や台風などの時に、集中して強く降るからです。三つ目は日本ではほかの国にくらべて山から海までの距離が短いので川の流れが急なためです。四つ目は日本には、世界の1割くらいの活火山が集まっています。地震が多く、火山の噴火もよく起こるからです。

では、どうやって災害から町を守っているのでしょうか？山や谷から流れ出した土石流が町まで流れてこないようにせき止める砂防えん堤工事。がけを崩れにくくする法枠工事。崩れてきた土を止める擁壁工事。地すべりを防ぐ工事では、その原因となる地中の水をとりぞきます。また、雨が地中にしみ込みにくいようにする水路工事、さらに、じょうぶな杭を打って地面が動くのをおさえる杭工事など工事にもたくさんの種類があります。

工事以外にも雨のふり方や川の流れるようすなどの情報を集め、災害が起きそうな時には、町や県に連絡して住民に早く避難するように伝えたりします。防災教室や資料館・博物館などをつくって自然災害のおそろしさや防災の大切さを伝えています。実際、小学校3年生の見学旅行で、中央消防署の防災センターにいき、台風の風の強さや地震のゆれを体験しました。また、中学校でも避難訓練があり、防災について学んでいます。このようなことが分かって僕たちができることは何だろうと考えました。

まず自分の家のまわりに危険な場所はないか調べました。もしもの時のために、災害に備え「防災メモ」を作り、家族で話し合いました。防災メモには、非常持ち出し袋にいれるもの。避難場所に行く安全な道順。連絡先を書きました。

そして何よりも大切なことは、避難の知らせが出た時や、危険だと思った時は、安全な場所へすばやく避難すること。まさか僕たち私たちの地域は大丈夫と考えるのではなく、普段から災害は、いつ、どこで起こるか分からないということを心がけておかなければならないと強く思いました。

今では、インターネットや携帯電話で雨量などの情報を得られるようになりました。一人一人が防災意識を高め、情報を収集し、自然災害から身を守る必要があると感じました。

これからも、自分で調べたり、尋ねたり、災害に対する関心を深めていこうと思いました。